

アラブ編

アラブ統一を
目指した
4人の男達

アラブ編

序章

イスラム国と アラブの栄光





意外にも
統治能力は高いと考えられています。

外国人の誘拐や、世界遺産の破壊など
過激な暴力集団のイメージが強い
イスラム国ですが



2011年現在
存在感を増している
「イスラム国」。

※ISIS, ISILとも。



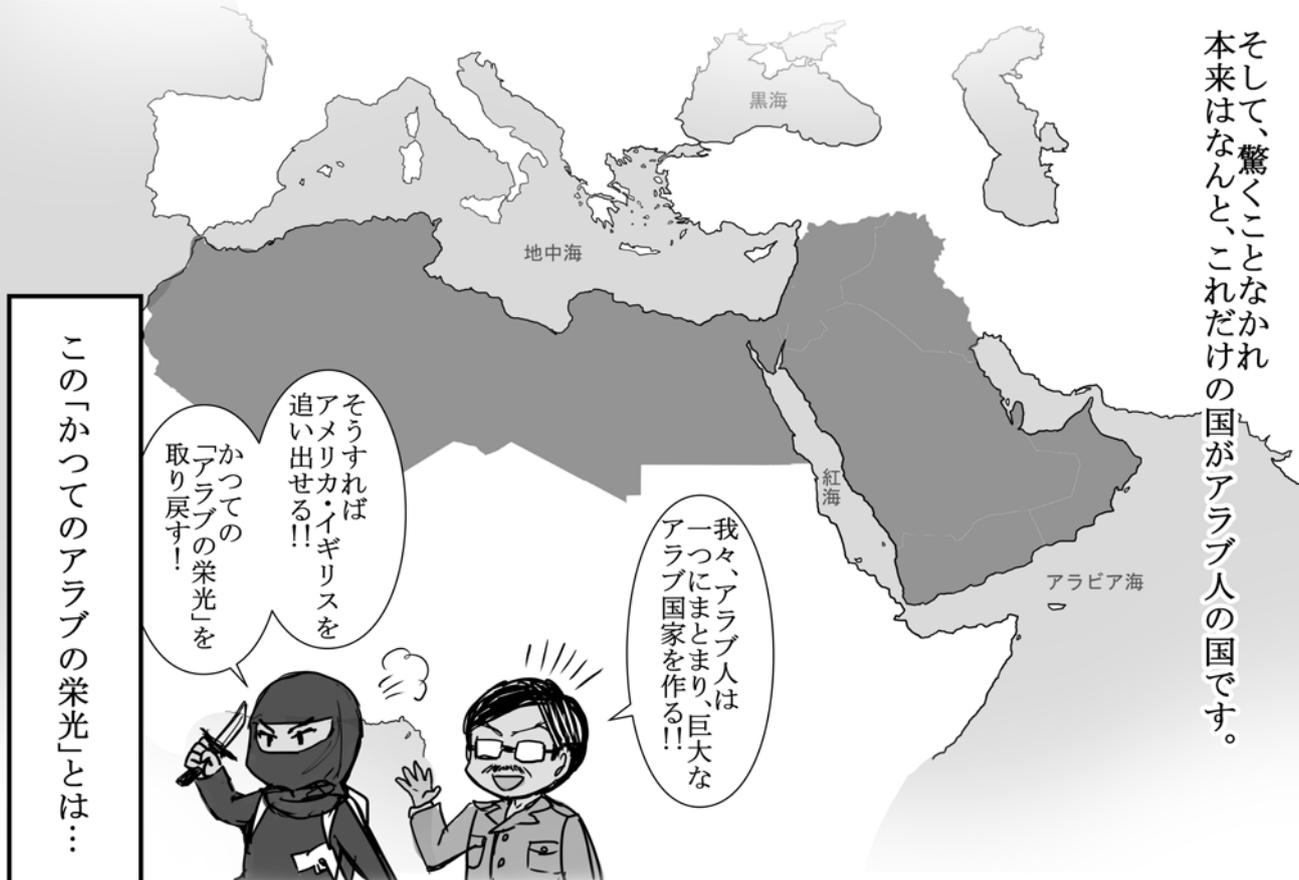
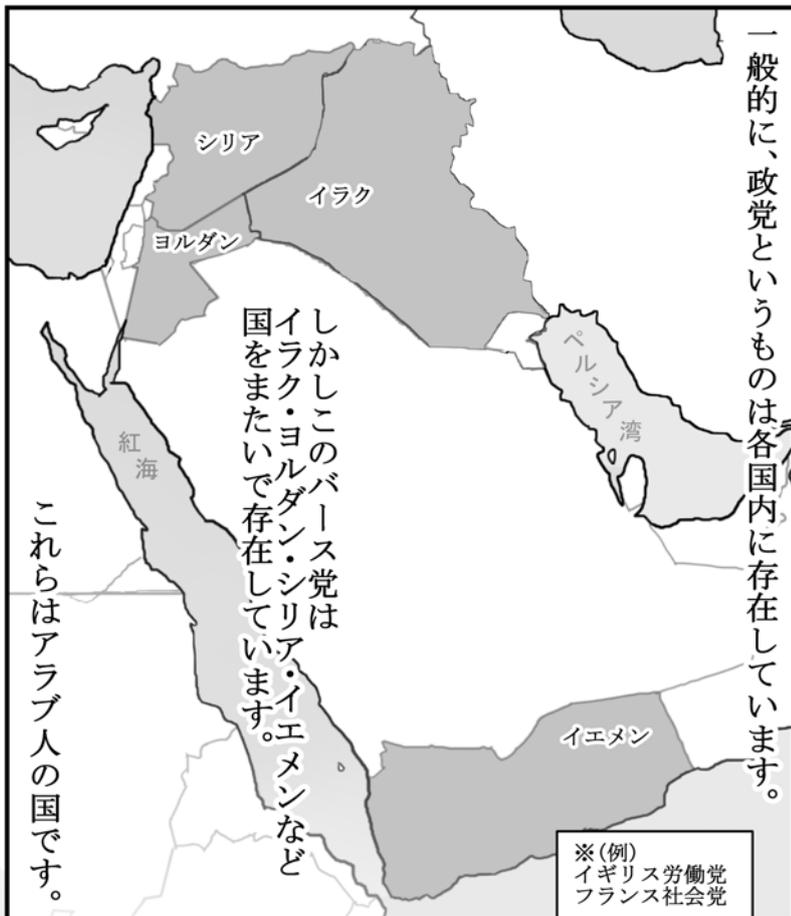
彼らは、「バース党」という政党に属していました。

そんなイスラム国の躍進の陰には
2003年のイラク戦争でアメリカに敗北した
旧フセイン政権の高級官僚達の合流があったのです。



恐怖政治によって
占領地の住民を支配する一方
住民サービスも提供しています。

その証拠に発電所や水道などのインフラは
これまで通り運営され
保健所等も機能しています。



もともとアラブ人はアラビア半島に住む貧しい遊牧民でした。



彼らのことを「ベドウィン」とも言いますが、これは「荒野に住む者」という意です。

6世紀から7世紀頃日本で言うと聖徳太子が活躍していた時代。

東西を結ぶシルクロード(6~7世紀頃)

←至ヨーロッパ 至中国→



中国から中央アジア、ヨーロッパをつなぐ陸上交易路、シルクロードが戦争によって不安定になります。

そのためシルクロードを使っていた商人達は迂回する必要が出てきました。



結果、アラビア半島西部のヒジャーズ地方が交易路として大きく栄えることとなります。

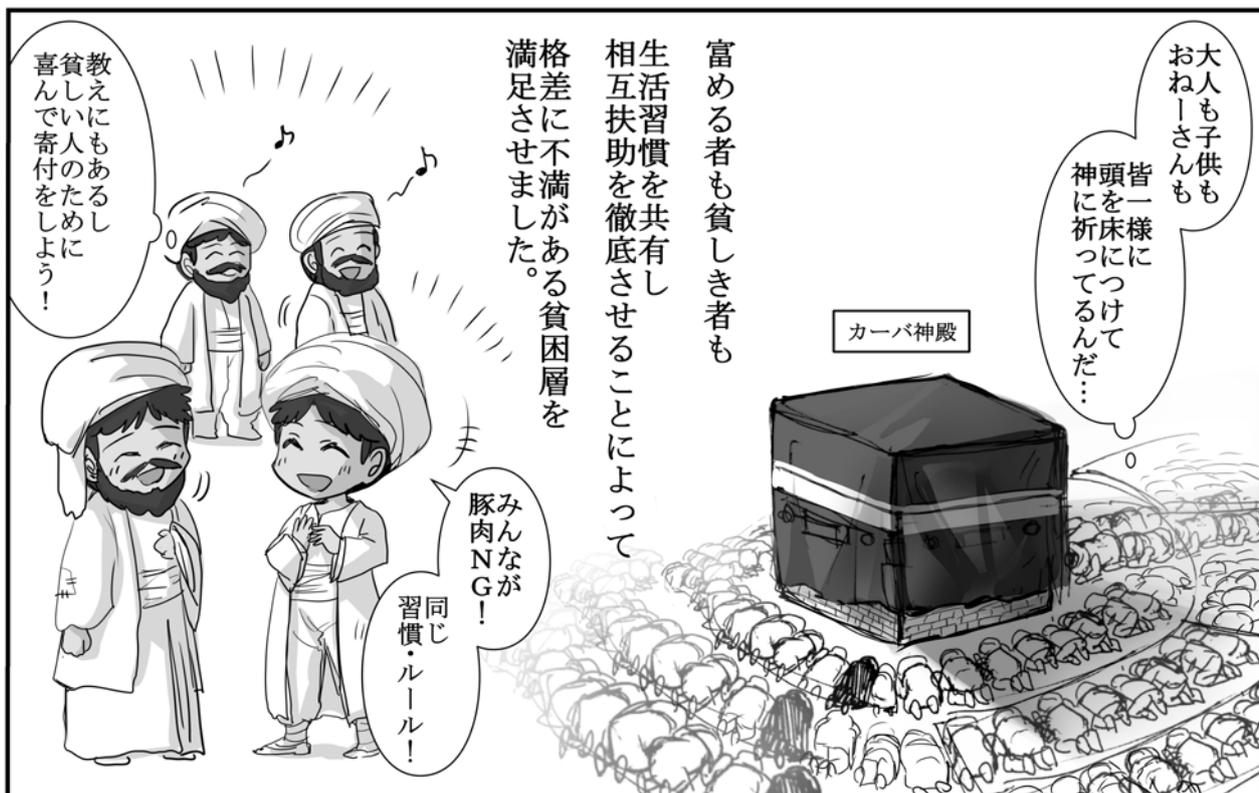
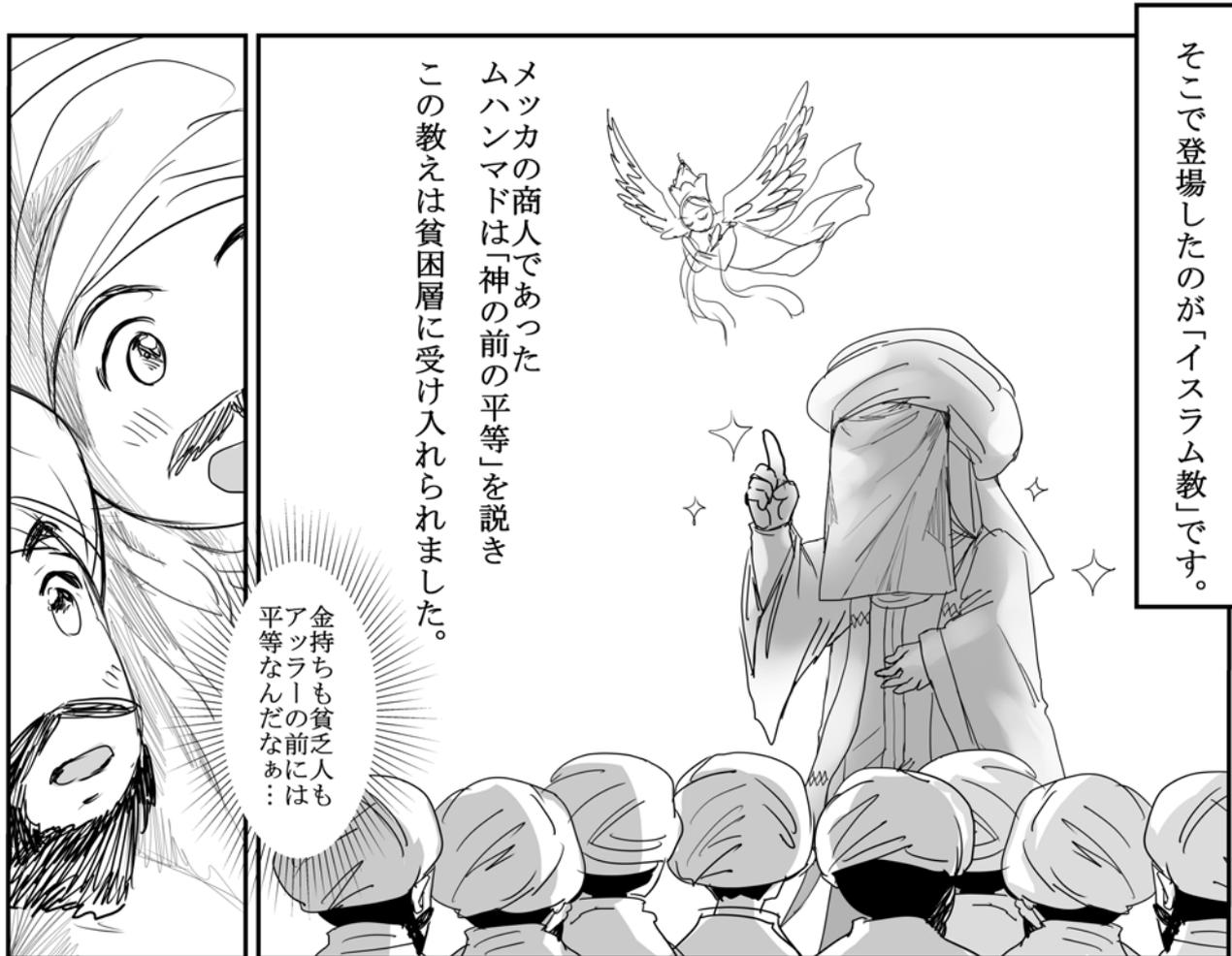
この流れを受けてアラビア半島では商いを始めて富を築く者も出てきました。

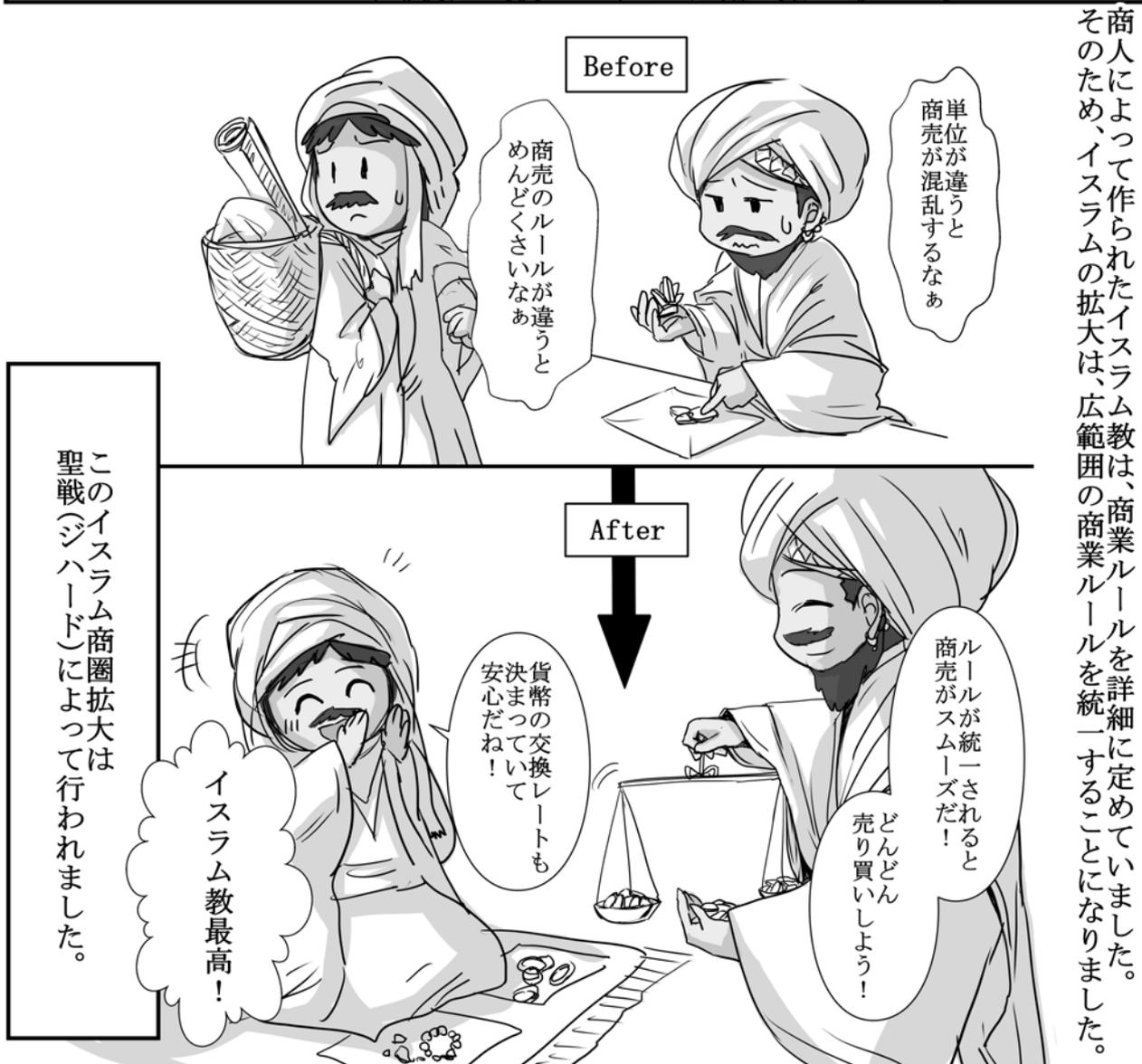
「風が吹けば桶屋が儲かる」ってワケよ

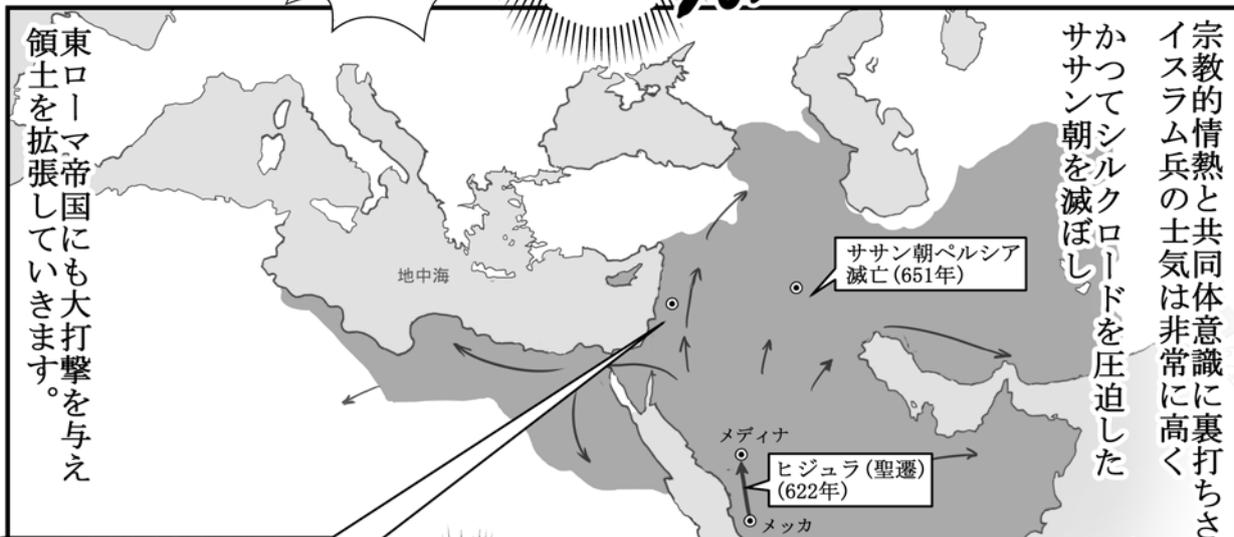
しかし、その一方で同じアラブ人の中でも貧しいままの者もいて

その格差は対立を生みました。







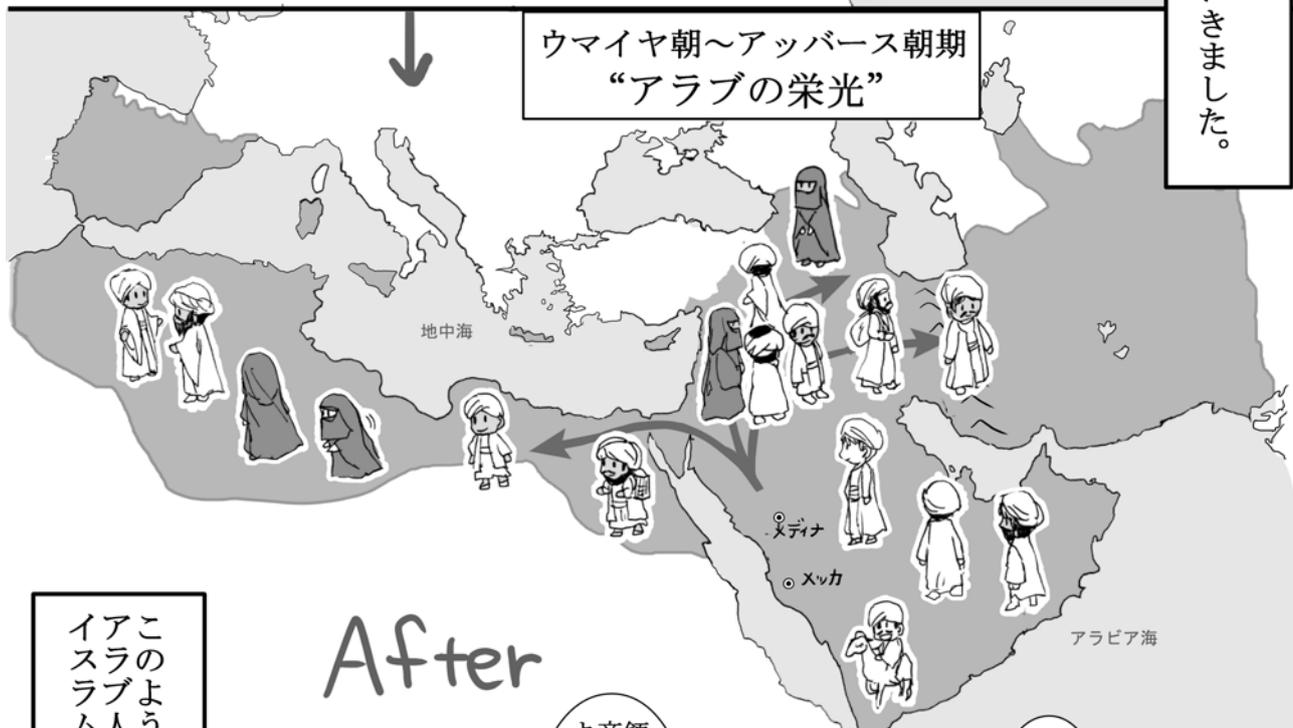






こうしてイスラム圏は拡大し多くのアラブ人が各地へ移住していきました。

Before



ウマイヤ朝〜アッバース朝期 “アラブの栄光”

After

このようにアラブ人を中心とするイスラム王朝は隆盛を誇ったのですが…。



領域が広がって商売しやすくなったな。よい感じだ！

あの荒野からここまで来たかあ



時代が下ると同じイスラム教徒になったトルコ系が台頭します。より戦闘に長けた彼らはイスラムの支配層になっていきます。



最終的には、すべてのアラブ人がオスマン＝トルコ帝国の支配下に入ってしまう。

そして雌伏の時……

〜アラブ1章に続く〜

試し読み版を読んで頂きありがとうございます。
この試し読み版は画質を落とさせて頂いています。
よければ、お近くの書店等でご購入ください。
ゆげひろのぶ